

環境活動

自然環境

(自然破壊への対応)



都市の自然環境の保全・再生に努めます

環境配慮方針 1-①

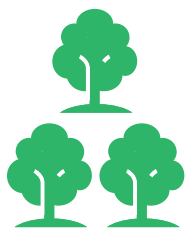
取組方針

緑と水の豊かな自然環境は、人々にうるおいを与える動植物とのふれあいの場、未来を担う子どもたちの教育の場として大事なものです。また、防災・避難機能や地球温暖化防止機能など多くの機能も兼ね備えています。このような多様な機能を有する自然環境と調和したまちづくりを進めます。

実績

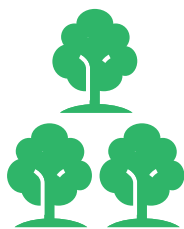
植樹本数
(高中木)

約10,000本



既存樹木の有効活用
(高中木の保存・移植)

約300本



透水性舗装

約61,100m²



自己評価

樹木を新たに植えるだけでなく、もともとあった樹木についても数多く残すことで、地元の方々の想いを引き継ぐことができました。また、透水性舗装を積極的に採用したことは、近年多発する豪雨対策につながると考えています。今後も引き続き、地域の自然環境を良くする活動を推進していきます。

適応策

市民とともに育て続ける 公園整備の実現



来園者でにぎわう様子

2021年3月27日、大阪府高槻市からの要請を受け、京都大学大学院農学研究科附属農場の移転跡地において、UR都市機構の防災公園街区整備事業と高槻市の史跡整備事業が一体となって整備を進めてきた「安満遺跡公園」が全面開園しました。

本公園は、広域避難地として臨時ヘリポートやマンホールトイレなどの防災機能を備え、災害時における復旧活動の拠点としても活用されるとともに、弥生時代の貴重な遺跡を保存・活用した史跡公園部分と合わせ、甲子園球場5個分の緑豊かなオープンスペースが誕生し、市民活動の拠点や憩いの場となっています。

また、公園整備にあたっては「市民とともに育て続ける公園」をコンセプトとし、初期整備で完成形を目指すのではなく、時代やニーズに合わせて変化させていくハーフメイドエリアを設定し、余白を残した整備とすることで、地域に根差した公園づくりを実現しました。

平時から地域に使用してもらうことで、緊急時の防災公園としての役割にもより一層期待ができます。今後も使用され続けることで、地域の方に愛着や誇りを持ってもらえる公園づくりを目指していきます。

受賞歴 ■ 令和元年度おおさか環境にやさしい建築賞



計画図



ふわふわドーム



大屋根広場



公園全景

▼詳しく知りたい方はこちら

弥生時代の「暮らしやすさ」を現代に。

“未完成”の遺跡公園は、市民とともに育ち続ける。

https://www.huffingtonpost.jp/entry/ur-greeninfra_jp_61a85368e4b0f398af1c539e



環境活動 自然環境 (自然破壊への対応)

都市の自然環境の保全・再生に向けた取組

良好な都市景観の形成

グリーンインフラを活用した計画・設計



環境負荷の低減や居心地の良い空間形成を図るため、周辺とのネットワークの形成を意識した広域的な視点で、グリーンインフラ(社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組)を活用した計画・設計を進めています。

グリーンインフラを活用することで、UR賃貸住宅にお住まいの皆様や地域の方々の心身の健康増進にも寄与します。そうした視点からのより効果的なグリーンインフラの活用についても検討し始めています。

CASE STUDY

緩和策



▶ 緑地を含む団地屋外空間でのプレイスメイキング実証実験を実施

2021年10月2～7日、ニューノーマルに対応した団地屋外空間の活用方策検討と、ミクストコミュニティの形成を目的として、大島六丁目団地(東京都江東区)において、以下のイベントを実施しました。

おもちゃの広場：子どもたちとその親御さんがおもちゃコンサルタントと一緒に、屋外空間でのおもちゃ遊びの体験や手作りおもちゃの製作を楽しみました。

屋外テレワーク実証実験：緑地空間を含めた複数の空間に椅子とテーブル、Wi-Fiと電源を設置し、開放的なテレワークスペースを創出しました。

ノルディックウォーキング体験会：屋外空間を活用した新たな活動ニーズ把握を目的とした体験会を開催し、実際にノルディックポールを持って、団地内をウォーキングしました。

期間中、団地屋外空間のニューノーマルな活用やグリーンインフラの取組として、新しい団地屋外空間の過ごし方を多くの方に体験していただくとともに、多様な世代の方にご来場いただき交流頂いたことで、ミクストコミュニティ形成に資するプレイスメイキング※な試みとなりました。

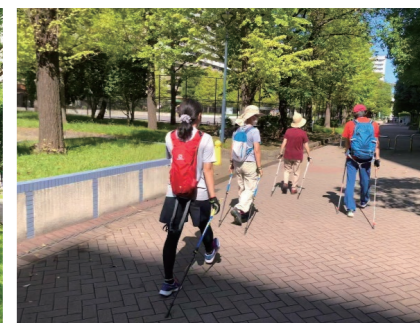
※ひとの欲求やひとの活動から公共空間のあり方を考え、公共空間に一人一人の居場所をつくる手法の一つ



子育て・交流サロン「おもちゃの広場」の様子



開放的な緑地内のテレワークスペース



ノルディックウォーキング体験会の様子

▼詳しく知りたい方はこちら

大島六丁目団地でカフェ06(ゼロロク)一周年イベント・屋外テレワークを実施
https://www.ur-net.go.jp/news/20211026_touchin_ohjima.html



透水性舗装、雨水浸透工法

適応策

UR賃貸住宅では、通路や駐車場などの舗装に浸透性の高い透水性舗装を採用しています。路面の排水効果が高く、水たまりができてくいため、歩行性等の向上が図れるほか、浸透トレンチや浸透柵などの雨水浸透施設と組み合わせることで、降った雨水を極力地下へ浸透させ、下水道や河川への集中的な流入を抑えることができます。また地下水のかん養を通して地域の水循環が確保され、生態系の維持につながるなど総合的に環境負荷を低減しています。

保水性舗装によるヒートアイランド対策

適応策

保水性舗装は、舗装材が一時的に雨水を蓄え、その雨水が蒸発する際の熱吸収効果によって路面温度の上昇を抑制する機能があります。この機能により、日中の路面温度の上昇抑制や路床部分の蓄熱量低減による夜間の放熱抑制により、ヒートアイランド現象を緩和することが期待されます。

都市再生における公園整備

都市再生の推進にあたっては、民間事業者等と連携し、自然環境の保全や既存樹木の活用など環境に配慮したまちづくりを行っています。都市公園は緑と身近にふれあえる憩いの場として、良好な都市環境を形成する重要な都市施設です。UR都市機構は、地方公共団体からの要請に基づき、都市公園を整備しています。2021年度は5箇所で開催しました。

適応策

CASE STUDY

▶ 千葉県蘇我スポーツ公園 ゴルフ場オープン

2021年9月1日、千葉県蘇我スポーツ公園(千葉県中央区)内にゴルフ場(約3ha)がオープンしました。本ゴルフ場ではパークゴルフ、ターゲット・バードゴルフ、グラウンドゴルフの3種の競技をプレーすることが可能で、同一ホールでパークゴルフとターゲット・バードゴルフをプレーできる日本初の施設となっています。かつてこの土地は川崎製鉄(株)(現JFEスチール(株))の工場でしたが、工場の移転に伴い、新たな都市への再生を目指し公園として整備したことで、都市のクールスポットにもなっています。ゴルフ場は全面に芝生を植栽しており、雨水の涵養、蒸散などの機能により、熱環境の改善に寄与しています。本公園は、非常時には千葉市の広域防災拠点としての役割を担う計画となっていますが、平常時はスポーツ公園として幅広い年齢層の地域住民の方々に利用されています。2022年4月に全面開園を迎え、今後はさらなる環境改善、地域活性化につながる場として機能することが期待されます。

▼ 詳しく知りたい方はこちら
千葉県蘇我スポーツ公園が完成
<https://www.ur-net.go.jp/toshisaisei/press/hndcds000003bki-att/hndcds000003bif.pdf>



利用状況

オープンスペースにおける緑の確保

UR賃貸住宅や都市再生事業におけるオープンスペースでは、多くの緑地を創出・再生しています。2021年度は、新たに高中木を約10,000本植えました。

屋上緑化による緑の創出

適応策

屋上緑化は身近な緑の空間を提供し、都市部のヒートアイランド現象を緩和するものです。UR都市機構では1993年度から薄層土壌による屋上緑化の技術開発を行い、UR賃貸住宅等への屋上緑化を実施し、これまでに約16.4ha(東京ドーム約3.5個分)整備してきました。

にぎわい等による地域の価値向上、都市への愛着や誇りの醸成

まちづくりにおいては、にぎわいの形成を図る等地域の価値向上や、UR賃貸住宅居住者の地域に対する愛着や誇りを醸成させるために、地域の自然、生活、歴史、文化等の特性や、樹木等の環境資源を積極的に活用しています。

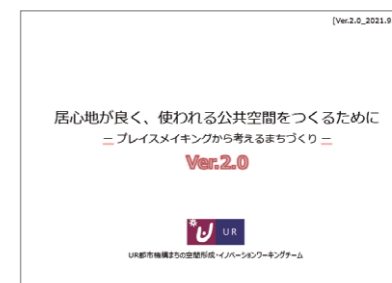
CASE STUDY

▶ 居心地が良く、使われる公共空間をつくるために ~プレイスメイキングから考えるまちづくり~

「居心地が良く、使われる公共空間形成」に向けて、ひとの活動に着目し、有識者の助言をもとにプレイスメイキング*の考えを取り入れた方法論を「中間とりまとめ」として整理してきましたが、実践等を踏まえて内容を更新し「中間とりまとめ更新版」として公開しました。

また、一般社団法人ソノバとの共同研究により、プレイス・ゲーム(海外のワークショップ手法)の日本版ガイドを開発し、空間づくりの初期から関係者調整や空間評価が一定程度行えるツールとして公開しました。さらに、2021年3月と12月に行われた国際シンポジウム「プレイスメイキングウィーク」では、UR都市機構がプログラムの一つを企画・登壇し、オンラインで配信しました。

引き続き、実際の取組を通じて得られる成果や課題を踏まえながら、UR都市機構のプレイスメイキングやまちづくり等に活用していく予定です。



中間とりまとめ更新版

※ひとの欲求やひとの活動から公共空間のあり方を考え、公共空間に一人一人の居場所をつくる手法の一つ



プレイス・ゲームガイド



プレイスメイキングウィーク登壇者(3月開催分)

受賞歴 ■ 2021年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)

▼ 詳しく知りたい方はこちら
居心地が良く、使われる公共空間をつくるために ~プレイスメイキングから考えるまちづくり~
<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/machiindex.html>

CASE STUDY

▶ 団地の豊かな自然を活かした環境教育と地域コミュニティ形成への取組

江南団地(愛知県江南市)では、地球温暖化の緩和や生物多様性にも寄与する団地の豊かな緑を、貴重な資源として活かし、環境教育や地域コミュニティ形成、団地活性化に取り組んでいます。

団地建設当初から残る自然林に関して、自治会とのワークショップを通じて、樹木の適切な維持管理や、森の資源を活かした多様な主体による取組等についての方針を策定しました。

これに基づき、2020年から江南市と連携して、団地内の豊かな自然を活用し、生物多様性や地球環境に関する環境教育などを行っています。

▼詳しく知りたい方はこちら
団地の森を育てる「どんぐり教室」
<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress68/tanoshiidanchi.html>



みんなでコンポストを掘り起こします



かぶとむしの幼虫をたくさん発見しました

2021年は、10月に「かぶとむし幼虫教室」及び「どんぐり教室」を行い、延べ30人以上の方が参加しました。

「かぶとむし幼虫教室」: 自然林内に設置されたコンポスト*の土を掘り起こし、かぶとむしの幼虫を採集しながら森の生態系について学びました。

「どんぐり教室」: 自然林で拾ったどんぐりを苗床へ植え付けたり、どんぐり小物を作ることで森の育ち方や樹木の仕組みについて学びました。

また、団地にお住まいの方と協働し、団地内でも見られる樹木の葉を利用した「草木染」や、自然林で生えているコケを使った「こけだまづくり」などを行うことで、多世代における交流機会の創出や、身近な緑への理解を深める取組も行いました。

*落ち葉を集めて腐葉土化させるもの



どんぐりを苗床に植え付けたら、藁を敷いて冬越しの準備をします



自然林で拾ったどんぐりに給付けをして、小物づくりをしました



かわいいどんぐりの置物ができました



モミジの葉っぱで布を染めます



それぞれ個性的な模様になりました



土とコケを丸めます



頭にヘデラを挿して完成です

既存樹木の有効活用(グリーン・バンク・システム)

UR賃貸住宅の建替の際などに、既存樹木の有効活用(グリーン・バンク・システム)を積極的に行っています。長い年月をかけて育ってきたUR賃貸住宅用地内の貴重な緑を活用するグリーン・バンク・システムは、既存樹木を極力そのまま保存する、移植して同じ地区内で活用する、他の地区に移植して活用するなどさまざまな事業において有効活用を進めています。伐採せざるを得ない樹木についても木材をベンチ用材などに加工して再生利用を行っています。

2021年度は、浜見平団地(神奈川県茅ヶ崎市)等での建替において既存樹木を活用した整備を行いました。

また、保存樹木を活用することを条件とした土地譲渡や、移管公園などの整備における保存または移植樹木の活用など、引き渡し先の民間事業者や地方公共団体との連携による既存樹木の有効活用も進めています。

緩和策

CASE STUDY

▶ 住み続けるまちの景観と記憶の継承に資する印象樹木の移植保全などの取組

地域で長年にわたって育まれた景観や緑の資産を継承していくため、2021年度も既存樹木を移植保存し、シンボルとなる印象樹木として活用しました。

浜見平団地(神奈川県茅ヶ崎市)ではケヤキやクロマツ、マテバシイなどが数多く植栽されており、東海道の海が近い住宅地域らしく独特の景観をつくり上げています。「浜見平特別景観まちづくり地区」に指定されていることもあり、建替計画の初期段階から、茅ヶ崎市や自治会とともに、地域全体で景観を保全、向上させていくことに取り組んでいます。今回、7~12mのケヤキ3本、クロマツ3本、マテバシイ1本を樹木診断の上健全性を確認して、移植保存しました。移植先は広場や結節点などの景観上重要なポイントとし、植える地盤を少し高くするなど、どこからもよく見えて印象に残るように工夫しました。また、シンボル軸「鉄砲道」のイチヨウ並木の保存も併せて行いました。

西大和団地(埼玉県和光市)は、ケヤキの団地といえるほど大きなケヤキに囲まれた地域となっています。今回の建替に伴い、ケヤキの豊かな緑と緑陰を引き継げるように、新規集会所前の芝生広場に移植保存をしました。埼玉県環境がケヤキの生育に

非常に適しており、負荷が少なく活着すると考えられることから、大枝を張って掘り所となってくれることを期待し、空間を広めに確保するように計画しました。

どちらの事例も移植樹や保存樹にしか出せない幹の太さや樹高からくる重厚感を大事にし、緑の資産を守ること、印象的な故郷の情景がつけられていくことを目指しています。



特殊重機による移植(浜見平団地)

移植後5カ月(西大和団地)

生きものとふれあえるビオトープの創出

自然環境が少ない都市において、ビオトープ(生きものの生息空間)を計画的に整備することで、地域生態系の保全・再生を図っています。UR賃貸住宅では、これまで既存林の活用や水辺の整備などさまざまなタイプのビオトープを創出してきました。

2005年度から2019年度まで、供用開始から一定の年数が経過したビオトープを対象に植物や昆虫、鳥類などの生育・生息状況について調査を行っており、多摩平の森(東京都多摩市)においては東京都レッドリストに記載の重要種であるアオゲラ(比較的大きな緑地に生息する鳥類)が新たに飛来していることが確認されるなど、ビオトープが地域生態系ネットワークのつながりを高める場として機能していると考えられます。

今後も、より地域生態系の保全・再生に貢献するオープンスペースの創出・維持を図っていきます。

▼詳しく知りたい方はこちら
生物多様性
<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/kankyo/shoukai/seibutsu.html>

